



MASUDA City Council News

ますだ市議会だより

2026

11

November

No.159



高津川花火大会2026計画運営チームの皆さん

目次

P02▶▶ 議会報告会開催／広報研修会参加／県知事要望
P03▶▶ こんなことが決まりました
P04▶▶ 審議結果
P05~11▶▶ 一般質問
P11▶▶ 特別委員会審査結果

P12~13▶▶ 常任委員会審査結果
P14~15▶▶ 常任委員会行政視察報告
P15▶▶ 議会の活動
P16▶▶ 市民インタビュー（高津川花火大会2026
計画運営チームの皆さん）／編集後記

議会報告会

「議会と市民の対話カフェ～知る・話す・考える、益田のこれから～」を開催します!

日 時

令和8年11月7日(土)

[第1回目] 13時30分～15時00分

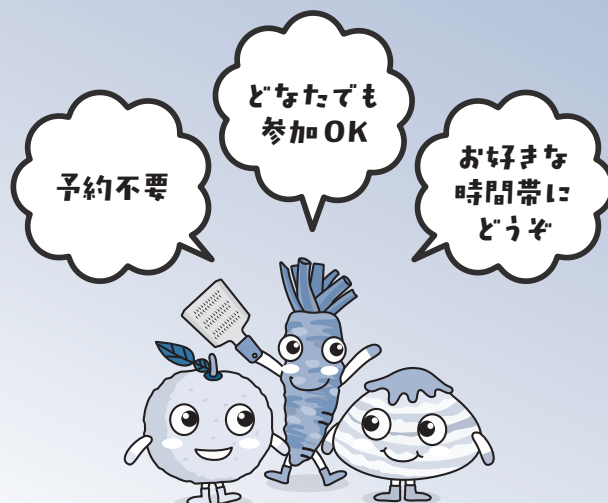
[第2回目] 16時00分～17時30分

場 所

益田市役所
多目的棟会議室(本庁舎裏)

当日のプログラム(各回共通)

- 議会のしくみ(動画視聴)
- フリートーク(議員に直接、意見・質問ができます!)



議員の活動報告

01

島根県市町村議会広報研修会への参加



県内の議会広報編集に携わる議員を対象に開催される研修会に、議会だより編集委員会が今年も参加しました。この研修は、議会広報の発行にあたっての心構えや編集技術を学び、議会広報紙の水準向上を目的としています。

議会だより編集委員会では、住民の皆さんにより関心を持っていただける広報紙づくりを目指し、研修会で学んだ知識や技術を活かしながら改良を重ねてきました。こうした取組が評価され、今年は他市の議会から広報紙の作成について行政視察をお受けするまでになりました。今後も皆さんに読んでいただける広報紙をお届けできるよう、さらなる向上に努めてまいります。

02

熊・鳥獣被害対策を県知事へ要望



令和8年8月27日、石見四市議会議長会で島根県知事に対し、熊・鳥獣被害対策の強化についての要望書を提出しました。

要望においては、今年度の益田市内における熊の目撃件数は昨年度の2倍以上に急増しており、住民の安全が脅かされている現状も訴えました。

知事からは、専門職員による技術的支援や緊急銃猟対応研修の実施、県外射撃場を活用した訓練への補助制度の活用についてなどの回答がありました。

こんなことが決まりました

9月定例会では、令和7年度一般会計歳入歳出決算および特別会計歳入歳出決算、令和8年度一般会計補正予算のほか、条例の一部改正議案、一般議案などについて慎重な審議をした結果、原案どおり可決・認定・同意・適任となりました。

令和7年度 益田市一般会計・特別会計歳入歳出決算を認定

令和7年度の一般会計・特別会計（介護保険特別会計など5会計）および水道・下水道事業会計の各決算について、付託された委員会での審査を経て、本会議においてすべて認定されました。

令和8年度 益田市一般会計補正予算

補正後の一般会計予算総額… 300億8,766万3,000円
補正額…………… 8億5,037万2,000円増額

総務費

防災備蓄品整備事業費

216万3,000円

クマ出没増加に対応するためのクマ対策用品購入経費の増額



民生費

隣保館管理費

438万1,000円

人権センター屋根防水改修工事に要する経費



衛生費

予防接種事業費

831万1,000円

RSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）予防接種の定期接種化に伴う増額



農林水産業費

農道維持補修管理費

1,830万円

倒木等による支障木伐採作業および川登柏原農道の法面崩壊・舗装路面亀裂等進行に伴う復旧工事等の経費



商工費

歴史文化交流館管理運営経費

112万7,000円

歴史文化交流館正面入口スロープ設置工事による増額



教育費

学校給食提供支援事業費

2,600万円

米および食材費の価格高騰に伴う学校給食の安定的な提供を支援するための経費



議案等の審議結果

出席議員全員が賛成した議案

(全会一致で、議案は「可決」、認定案件は「認定」、人事案件は「同意」「適任」とされました。)

議案番号	件名
市長提出議案	
報第14号	専決処分報告について
議第54号	益田市監査委員条例等の一部を改正する条例制定について
議第55号	益田市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について
議第56号	益田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について
議第57号	益田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について
議第58号	益田市景観条例の一部を改正する条例制定について
議第59号	益田市営住宅設置条例の一部を改正する条例制定について
議第60号	益田市営住宅管理条例の一部を改正する条例制定について
議第61号	益田市立匹見福祉・定住促進住宅設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
議第62号	益田市立雪舟の郷記念館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
議第63号	令和8年度益田市一般会計補正予算第2号
議第64号	令和8年度益田市介護保険特別会計補正予算第1号
議第65号	令和8年度益田市国民健康保険事業特別会計補正予算第1号
議第66号	令和8年度益田市後期高齢者医療特別会計補正予算第1号
議第67号	令和8年度益田市水道事業会計補正予算第1号
認定第5号	令和7年度益田市匹見財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第6号	令和7年度益田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第7号	令和7年度益田市下水道事業会計決算の認定について
認定第8号	令和7年度益田市水道事業会計決算の認定について
議第68号	情報公開・個人情報保護審査会委員の任命について
議第69号	固定資産評価審査委員会委員の選任について
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について

賛否の分かれた議案

議案 番号	件 名	審議 結果	賛 成	反 対	佐々木 恵二	須藤 一二三	豊田 浩	永戸 明美	阿知波 武雄	平原 祐一	齋藤 勝廣	河本 亮	高橋 伴典	中島 賢治	大賀 満成	河野 利文	安達 美津子	中島 守	林 卓雄	大久保 五郎	福原 宗男	寺井 良徳	久保 正典
市長提出議案																							
認定第1号	令和7年度益田市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	15	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	棄	○	●	棄	○	○	○	○	○
認定第2号	令和7年度益田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	17	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
認定第3号	令和7年度益田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	17	1					○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
認定第4号	令和7年度益田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	17	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 棄：棄権 除：除斥

※議長（佐々木 恵二）は採決に加わりませんが、可否同数となったときは、議長が裁決します。

★除斥とは★ 議会における審議を公正なものとするため、議題となった案件と利害関係にある議員をその審議に参加できないようにすることです。

一般質問

一般質問とは、議員が市の行財政全般について、市と政策討論するものです。令和8年9月定例会では、12名の議員が登壇しました。

01 河野 利文議員 …… P05

美都温泉・匹見峡温泉のあり方の方針

02 平原 祐一議員 …… P06

学校体育館の空調整備

03 豊田 浩議員 …… P06

子どもの歯科保健教育

04 高橋 伴典議員 …… P07

市役所本庁舎の耐用年数経過後の検討

05 須藤 一二三議員 …… P07

子どもの体験格差をなくす仕組みづくり

06 大賀 満成議員 …… P08

空港名を「萩・石見柴犬空港」へ

07 永戸 明美議員 …… P08

防災意識への今後の取組

08 大久保 五郎議員 …… P09

令和8年度全国学力テストの結果

09 河本 亮 議員 …… P09

匹見の地域振興

10 齋藤 勝廣議員 …… P10

「森の国・木の街」づくり宣言参画のねらい

11 福原 宗男 議員 …… P10

非核三原則の法制化、核兵器禁止条約の批准

12 安達 美津子議員 …… P11

国民健康保険の保険料水準県内統一

一般質問の記事は、決められた文字数の中で議員本人が要約し掲載しています。詳細については次の方法をご覧ください。

●インターネット

- ・一般質問の様子の録画中継を、全会期日程終了後の約1週間後から配信しています。
- ・会議録は定例会終了後約3か月後から閲覧できます。

●会議録（冊子）

- ・議会事務局、美都・匹見各分庁舎、各公民館、図書館でご覧いただけます。なお、9月定例会の会議録は12月発行予定です。

●二次元コード

- ・各議員名の下の二次元コードからスマートフォンなどで質問者の動画がご覧いただけます。

益田市議会

検索



個人質問

問 美都温泉・匹見峡温泉のあり方の方針を問う

答 令和8年度末に完成する報告書の結果をもって判断する



このとしかみ
河野 利文 議員



答 令和8年度末の業務委託報告書で示される複数案を勘案した上で、最終的な方向性を決定していく流れになる。

問 報告書作成の段階で、事業者の参入意向や条件を直接聴取する「サウンディング型市場対話」を実施して反映させるべきでは。

答 現時点では具体的な提案内容を示せないため困難だが、報告書で複数案が提示された際、民間活用の可能性が見込まれる場合は実施を検討する。

問 報告書が令和8年度末になるということは、基本計画・基本構想の策定は令和9年度以降になるという理解でよいのか。

答 内部協議を進める中で、詳細な調査や意見聴取および検討委員会での十分な議論に必要な時間を勘案した結果、報告書の完成が令和8年度末となる見込みとなったので、この結果をもって判断していきたい。



美都・匹見の温泉施設

問 学校体育館の空調整備を問う

答 補助制度等の活用や施設の改修時期との整合性を図りながら研究検討していく



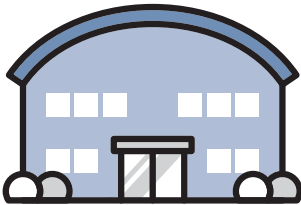
ひらはら ゆういち 議員 平原 祐一



問 第一次国土強靱化実施中期計画では、2035年までに、空調設置率を100%にすると目標設定されている。熊本地震を受けて前倒しする見解も示されているが、対応を問う。

問 文部科学省は令和8年5月時点の公立学校施設の体育館の空調設置状況を取りまとめた。全国平均は31.7%。東京都では95.6%、島根県では12.5%と明らかに都市と地方との開きが見られる。体育館は避難所として指定されている場合が多いが、酷暑が続く近年の状況を鑑みると、適切な避難場所といえるのか。

答 体育館は広大な空間と水道や電気などの基本的なインフラを備え、災害時における避難所として優れた特性を有している。しかし、酷暑が続く近年の状況に加え、冬期における避難を想定すると、空調設備のない体育館が真の意味での適切な避難所であるとは言い難い。



答 空調設置は学習面の向上だけでなく、熱中症対策や防災機能の強化の観点でも検討が必要である。一方、整備にあたっては、空調機器の設置費だけでなく、電気設備の改修、断熱機能の確保、維持管理費用の増大など課題もあることから、補助制度等の活用や改修時期を踏まえ、計画的な整備を研究検討していく。

問 子どもの歯科保健教育を問う

答 関係機関と連携し、今後も歯科保健教育を推進していく



とよだ ひろし 議員 豊田 浩



問 むし歯予防の取組の一つとして、フッ化物洗口についても、子どもたちの健康づくりの観点から、検討することが重要だと考えるがどうか。

問 第2次益田市教育ビジョンを踏まえ、全ての小中学校において歯科保健教育をさらに充実させるため、学校、家庭、学校歯科医、益田鹿足歯科医師会など関係機関と連携しながら、児童生徒の定期的な歯科受診の定着や口腔の健康づくりをどのように推進していくか。

答 口腔の健康づくりをはじめとする児童生徒の心身の健康の保持増進については、学校保健安全法に基づき、各学校で策定する学校保健計画により実施している。学校保健計画では、保健管理、保健教育、組織活動といった領域で、学校医や学校歯科医等と連携した取組も実施している。

答 歯科保健教育において、小学校ではむし歯や歯肉の病気の予防、中学校では歯周病など生活習慣病の予防について学習している。フッ化物洗口は、むし歯予防の選択肢の一つと捉えている。一方、薬剤の管理や準備、実施、保護者への説明など、教員の負担が課題である。今後、学校歯科医会や学校薬剤師会と協議し、負担軽減や実施方法について検討していく。



問 市役所本庁舎の耐用年数経過後への検討は

答 現時点では検討をいつ行うかについては特に考えを持っていない

問 当市公共施設等の今後の管理方針決定プロセスにおける市民ニーズの対応を問う。

答 市民ニーズへの対応を重視することは必要である。まず、市がある程度の方針を立てた上で市民に問い合わせることが必要である。

問 市役所本庁舎について、耐震化工事等改修も行われているが、何年後にその耐用年数を迎えるか。

答 本庁舎は建設から60年が経過しており、平成27年に耐震補強および長寿命化工事を実施した。この改修工事は改修後の使用年数を20年として実施しており、令和17年度にその年数を迎える。

ただし、この年数はあくまでも目安であり、適切な維持管理に



たかはし ともりのり 議員



令和17年度に耐用年数を迎える市役所本庁舎

よってそれを超えての使用も可能と考えている。

問 耐用年数が10年を切ろうとしている。その後の対応について検討に入るべきと考えるが、展望を問う。

答 本庁舎の使用継続が困難となれば、建替えを含む選択をしなければならぬ。市民生活に大きな影響を与える重要な案件である。現時点において、その検討をいつ行うかについては特に考えを持っていない。

問 子どもの体験格差をなくす仕組みづくりを問う

答 未来の担い手育成コンソーシアムと連携を図り、研究していく

問 今年度より小学校の学校給食費無償化、高校生年代までの医療費無償化など、経済的負担軽減が図られてきた。一方、親の負担を軽減する子育て支援だけでは、他市と差別化できず、家計が助かるという評価に留まる。支援を一歩前に進めるためには当市で子育てすると、子どもの可能性が広がるという新たな価値を創造する必要があるが、課題を問う。

答 少子化が進行し、子どもや家庭のニーズが多様化していることを踏まえ、当市の特徴を生かしながら、施策を一元的に推進していくことが求められている。行政だけでなく、子どもの成長や挑戦を地域全体で支える環境を整えていくことも重要である。



すどう ひろみ 議員



地域資源を生かした子どもの体験づくり（西益田あゆみか）

問 子どもの体験格差をなくし、多様な考えや人に触れる機会を、行政として積極的に作り出していくことが必要である。そこで市内企業、団体、地域住民等を子どもの学びの資源として繋げ、子どもたちがさまざまな体験をできる「こども体験パスポート」の仕組みを作ってはどうか。

答 民間・地域・学校・団体と子どもを繋ぐプラットフォームの構築は、益田市教育に関する大綱に掲げるテーマにも合致する。未来の担い手育成コンソーシアムの構成団体等と連携を図り、仕組みづくりを研究していく。

問 空港名を「萩・石見柴犬空港」にしてみてもいいですか？

答 全体の中で考える問題で、現状は厳しいと思っています。



おおが みつなり 議員



今後、観光協会等と連携して2次交通対策を含めた観光コンテンツ案を地域経済の波及と来訪者満足度向上につながる取組として検討していく。

問 令和8年の萩・石見空港大阪便の利用実績と今後について問う。

答 8月7日から13日の7日間運航した大阪便については、搭乗率93.3%という高い実績を収めた。課題は路線維持と運航期間の拡大である。路線維持と期間拡大を強く要望していく。

問 大阪便の高い実績に東京2便維持につながるヒントになるものがあったか問う。

答 大阪便の詳細な分析は現在していない。したがって今の段階で言えることはない。

問 「柴犬の聖地」としてさらに強く打ち出し、観光誘客につなげる考えを問う。

答 「柴犬の聖地」として民間レベルで活動が活発化している。



益田市の空の玄関口

問 空港名を「萩・石見空港」から「萩・石見柴犬空港」として世界へ発信してはどうか。

答 萩・石見空港という名称は県西部、山口県北東部を通じた空の玄関口で、すべての市町村の共通した名前であることから、現状提案の部分は厳しい。

問 防災意識への今後の取組は

答 体制の強化、要配慮者の支援などに取組み防災体制を構築する



ながと あけみ 議員



問 防災への意識を高めるための今後の取組を問う。

答 女性や妊産婦への配慮を含めた避難所運営体制の強化、要配慮者支援対策の充実に取組む。また、地域の自主防災組織との連携を強化し、バランスのとれた防災体制を構築する。

.....

問 ひきこもり支援のNPO法人からつとコミュニティの取組は、保護者の考え方を变えることで当事者が180度変わり社会復帰を目指すもの。この法人の講演会を開催してはどうか。

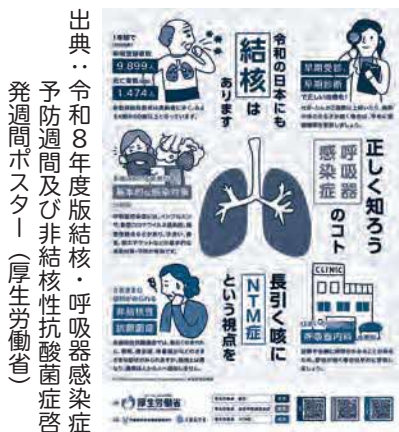
答 研修や講演会の開催は重要と考えるが、すでに支援者や関係機関を対象に研修会を実施し、質の向上や現状・課題について意見交

換を行っている。こうした事業を踏まえ、令和9年度以降の取組を検討する。

.....

問 9月24日から30日までを非結核性抗酸菌症啓発週間としている。普及啓発をどう考えているか。

答 非結核性抗酸菌症啓発週間を契機として、医療機関や関係団体と連携し、広く市民に非結核性抗酸菌症の特徴や治療に関する正しい知識を普及啓発していく。



出典：令和8年度版結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間ポスター（厚生労働省）

問 令和8年度全国学力テストの結果は

答 当市平均正答率と全国・県平均との差は依然として見られる

問 小6国語・算数で県平均を3ポイント下回っているが改善策は。

答 成果や課題を整理し、対策を現場と検討する。

問 中3国語・数学、特に図形の問題で全国平均を14ポイント下回っているが対策は。

答 両方の指標で昨年度の結果を下回っており、目標値に届いていない。授業改善策を検討する。

問 浮き彫りになった課題として、予習復習等の時間が減少し、記述式問題への無回答や正答率の低下が目立つが、その対策は。

答 1日1時間以上勉強する中学3年生の割合は、全国と比較して20ポイント以上低くなっており、家庭学習習慣の定着に向けて改善が必要である。また、気づきと対

話の取組が無回答率の改善につながることも考えている。

問 たつじんテストの取組と成果は。

答 小学3・4年生で実施しており、個々の児童の言葉、語い、数形、量、思考力、推論力等に関する学習のつまずきを把握し、個々の支援、全体への配慮の必要性を検討している。



おおく ころう
大久保 五郎 議員



問 これからの匹見の地域振興を問う

答 中山間地域振興基本計画に基づき匹見の住民と一緒に考えていく

問 匹見地域の人口も800人を切り、今後ますます高齢化が進み、さらにたくさんさんの問題が浮き上がってくると思う。今以上に行政との協力体制や話し合いの場が必要になると考えるが見解を問う。

答 人口減少が進む中で、行政と地域との強固な協力体制はますます重要なものになると認識している。中山間地域振興基本計画に基づき、住民の意見に寄り添いながら、人口が減少しても誇りと生きがいを持って暮らし続けていくことができる匹見地域を一緒に考えていく。

問 今年度、施政方針の中で美都、匹見の温泉のあり方について検討していくことが打ち出された。匹見峡温泉は地域にとって非常に重要な施設の一つである。大切に思っている住民の声を聴き、持続可能な運営体制を模索してもらいたいが見解を問う。

答 匹見峡温泉は長年にわたり地域住民の健康増進、交流の場の提供、観光資源としての役割、地域のコミュニティの維持等、地域にとって重要な施設であると認識している。一方で将来的な財政負担を考えれば、従来どおりの運営を続けることは難しいという課題がある。現在調査検討を進めているところであり、さまざまな選択肢を検討していきたい。



かわもと あきら
河本 亮 議員



匹見峡温泉

問 「森の国・木の街」づくり宣言参画のねらいは

答 豊かな森林の恵みを未来へ繋ぐ方針を発信し、意識醸成を図る



さとう かつひろ 議員
齋藤 勝廣



問 森の国・木の街づくり宣言に参画した背景には、当市自身の森林林業政策を変えていく、新たな方向へ進めていくという明確な意図があったのか。そのねらいを問う。

答 採算性の低さによる放置森林の増加、木材価格の低迷など、さまざまな課題がある。課題を解決するため、市が林業経営体・製材業者・設計施工者・企業・住民を繋ぐ調整役を担い、成長実現することが重要である。豊かな森林の恵みを未来にしっかりと繋ぐ方針を発信し、意識醸成を図りたい。



出典：「森の国・木の街」づくり宣言のチラシ（林野庁）

問 非核三原則の法制化、核兵器禁止条約の批准

答 非核・平和都市宣言の精神を堅持しつつ、政府の動向を注視していく



ふくはら むねお 議員
福原 宗男



また、日本政府は核兵器禁止条約から離脱したままだ。それを一歩進めるためにも非核平和宣言をしている自治体の長として、非核三原則の法制化と核兵器禁止条約の批准について国に訴えるべきだ。

答 非核三原則の法制化、核兵器禁止条約の批准については、わが国の外交や安全保障に関わる事項であり、政府および国会が判断すべき事柄であると考え。当市としては、非核・平和都市宣言の精神を堅持しつつ、政府の動向を注視していく。

交通安全宣言都市
スポーツ宣言都市
人権尊重宣言都市
暴力追放宣言都市
健康文化宣言都市
非核平和宣言都市
福祉宣言都市

益田市

益田市の都市宣言

問 国民健康保険の保険料水準県内統一を問う

答 負担の適正化を実現するためのやむを得ない施策である

問 国保の保険料水準を統一する方針が示された。令和10年度は保険料に医療費水準を反映させない納付金ベースを統一し、その後、令和15年度には保険料を統一する。納付金が増える市町村に対しては、激変緩和措置を実施するというものであった。この方針をどのように考えているか。

答 保険料水準統一の意義は、財政運営の安定化と、全ての被保険者が相互に支え合うことによる負担の公平性の確保にある。さらに、自治体間での共同実施により、効率的な事業運営が期待できる。社会保障制度の基本理念である相互扶助等、負担の適正化を実現するためのやむを得ない施策と認識する。なお、実施にあたっては負担

の増減に偏りが生じないように、県内での調整に最大限の配慮を求めている。

問 当市の国保の均等割額は一人5万1千円である。国の制度として、未就学児は均等割が5割軽減されている。子育て支援の観点から18歳まで均等割を免除するべきと考えるがどうか。

答 減免実施は慎重な判断が必要であると考えます。



特別委員会審査結果

令和7年度一般会計歳入歳出決算について審査した結果を、抜粋して掲載します。

一般会計決算審査特別委員会

令和7年度一般会計決算審査

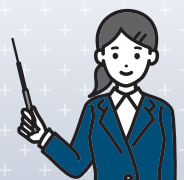
乗合タクシー運行事業費について
 園路線バスの廃止に伴い、代替路線を前年度より増加した。令和7年度の利用者は9,256人。

料金設定やコースなど、住民の声も聞きながら対応したと思うが、当初想定した人数について継続して利用されている状況が問う。

答 令和7年度に美都線を1路線増便した。全体的な利用者は伸びているが、新設した路線の利用者は横ばいとなっており、周知不足、ダイヤの利用効率が課題である。一方、説明会等を実施しおおむね好評を得ている。通学、通院等の利用は一定のフォローはできているものの、当初の想定より少ないため、さらに周知を図り利用者数増加を目指していきたい。

要・準要保護児童就学援助費について
 園当初予算での児童数は438人。最終的に対象となった児童数が449人で、児童数そのものは大きく増えていないにもかかわらず、約500万円の不用額が発生した理由を問う。

答 対象品目のうち、新入学生に対する学用品費があり、対象者人数を当初予算では73人を見込んで積算していたが、実績では45人となったことで不用額に影響した。またそれぞれの学校で、校外学習などで出かけた際には、給食を止めるため不用額が発生した。



審査結果

各委員会で審査した結果を
抜粋して掲載します。



総務文教委員会

路線バス3路線の廃止の方針示される

交通事業者より「二条線」「土田線」「大塚線」の3路線を、令和9年4月1日に廃止する方針が示された。廃止理由として経営効率化を図り、乗務員を含め安定的な運営を行うため、乗車人数の少ない路線を廃止すると説明があった。市は秋市と共同で減便対応や延期、住民説明を要望したが、経営状況から困難との回答であった。今後も交通事業者と協議を続けつつ、10月中旬までに住民との意見交換を行い、代替交通を検討する。

岡 地元住民の不安は大きく、事業者の説明がない以上、市が責任を持つて対応する姿勢を早く示す必要がある。住民との意見交換は、できるだけ前倒しして実施すべきではないか。

答 なるべく早い時期の実施を目指す。また、状況説明や代替交通については市が責任を持つて行う旨を伝えていく。

岡 昨年度の補助金支給で関係改



益田市地域公共交通活性化協議会の様子

善が図られてきただけに残念に思う。説明の場には事業者側から直接説明すべきと考えるが、考えを問う。また事業者が将来的にどのような路線・運営体制を目指すのか、方向性が見えないまま路線廃止が進んでいる。乗務員の雇用も含め、将来像を早急に示し、活性化協議会で議論すべきではないか。

答 住民説明会は事業者へ参加を強く求める。また活性化協議会では交通計画策定を予定しており、路線廃止は大きな影響を与えるため、市の協力についても利用促進策など検討の場を持ちたい。

福祉環境委員会

令和7年度益田市国民健康保険事業特別会決算の認定

岡 国保税の不納欠損額が1,000万円にも上っている。国保税を長期にわたり滞納した場合、医療機関の窓口で医療費の全額(10割)を支払わなければならないというペナルティが課せられる。そういったことがあるにも関わらず、多額の不納欠損金が発生する理由を問う。

答 滞納が長期になると、特別療養費の対象になる。そのため、丁寧な聞き取りや相談に応じたりしている。それでも状況が改善できないと判断した場合は、不納欠損という処理になる。

専門的な知識を持つコーディネーターへ相談するなどの事業にも取り組み、アドバイスをもらいながら事業を進めていく。

岡 美都診療所の患者の延べ人数が令和6年度と比較して1,000人程度減少している。医師が変更となったためというが、これまで通院していた患者はどのような状況になっているのか。

答 令和6年度は医師が小児科医

で、この医師の受診を目的に来院していた患者が多かった。また、市内から美都診療所まで通院していた患者も多数いた。現在は、市内の別の病院に受診していると聞いている。



益田市役所国民健康保険窓口

常任委員会

経済建設委員会

日本遺産「中世日本の傑作」認定継続決定

■日本遺産「中世日本の傑作」益田を味わう―地方の時代に輝き再び―認定継続（重点支援地域）

令和2年6月に日本遺産認定され事業を推進してきた。今年度、認定継続審査を経て9月1日に重点支援地域となったことが、文化庁から公式に発表された。決定当日は市役所本庁舎にてセレモニーを開催し、多くの市民が祝いに駆けつけてくれた。

今回の継続認定審査では、全国で当市を含む4地域が重点支援地域となり、10地域が通常の認定地域、6地域が再審査となった。重点支援地域については、認定地域のうち特に優れた実績や計画を持ち、他のモデルになるような地域のことである。

■重点支援地域に指定されるとどういうメリットがあるのか。

■答 文化庁から優先的に情報発信をしてもらえる。また、予算事業での補助率のかさ上げや、審査時の加算があるなどの優遇措置がある。



日本遺産継続認定セレモニー

■問 認定継続をどのように受け止めて市民に発信していくことができるか。

■答 これまでの取組等が文化庁から評価してもらえたことが当然ある。また、今回の継続審査時に策定・提出した今後4年間の地域活性化計画というものも評価された。この計画に沿って、市民への発信等を今後も取組んでいく必要がある。

一般会計予算審査委員会

令和8年度益田市一般会計補正予算第2号

■有害鳥獣対策事業費

■問 軽貨物自動車（軽トラック）を購入するとしているが、どういった用途、仕様の車両なのか。

■答 クマ檻等を運搬するための車両であり、特殊な仕様のものではない。現時点では、環境衛生課のトラックを借りて対応しているが、今年は9月17日現在ですでに46頭を捕獲したという状況の中で、非常時に車両が使用中で借りられないという事態も危惧される。よって180センチの檻を乗せて走れる軽トラックを購入し備えようとするものである。また、クマ檻の運搬が主用途になるが、中型動物の運搬や緊急銃猟が必要になった場合の備品運搬に利用することなども想定している。

■緊急修繕事業費

■問 市道通行安全確保のための崩土・落石等の撤去作業量や道路施設の緊急修繕工事量増加に伴う費用増額であるが、現状について問う。



クマの檻

■答 今年6月末時点で、崩土等の撤去については11件。陥没等に対応する緊急工事も11件となっている。昨年度と比較すると、今年度の四半期ですでに、昨年度の半期に相当する作業・工事量となっている。今後も緊急に発生する案件について、人命に関わることでもあるので速やかに対応していく。

総務文教委員会

不登校児童生徒支援の取組について（神奈川県横浜市）

「児童生徒・保護者を孤立させない」という視点のもと、個々の状況や思いを尊重しながら、社会的自立に向けた多様な支援を展開している。

学校内の支援として、全中学校146校に教員免許不問の「校内ハートフル支援員」を週5日常駐配置しており、長期欠席者数の減少に寄与しているとのことだった。通所型支援では、市内各地に複数の施設を設置し、子ども自身が活動を選択できる仕組みのもと、「集団コース」と「少人数・週1コース」の2コースを用意している。外出が難しい児童生徒には、大学生等が訪問する「ハートフルフレンド」や民間施設職員が訪問する「アウトリーチ」など家庭訪問型の支援も展開されており、保護者向けの座談会や相談窓口等による保護者支援にも力を入れている。

今回の視察を通じ、不登校の割合は人口規模にかかわらず全国的に同様の傾向にあり、当市においても課題は共通している。当市の校内教育支援センターの運営や通所・訪問型支援の多様化を検討するうえで、多くの示唆を得ることができた。



その他、3件の視察を行いました

- ・ 幼保小の架け橋プログラムについて（神奈川県横浜市）
- ・ 地域イノベーション戦略について（静岡県裾野市）
- ・ ふれあいサマーキャンプについて（公益財団法人 川崎市生涯学習財団）

福祉環境委員会

子どもの権利条例と子ども会議について（神奈川県川崎市）

川崎市の子どもの権利に関する条例では、子どもが人間として大切にされ、安心して成長できる社会を実現するため、7つの権利を定めている。中でも「個別の必要に応じて支援を受ける権利」に特に共感した。障がいのある子どもや外国にルーツを持つ子どもなど、置かれた状況が異なっても、それぞれの状況に合わせた支援を受けられるという考え方は、今後の子ども政策を考える上で重要な視点である。また、放課後の居場所施設や不登校児童生徒向けの適応指導教室など、状況に応じた多様な居場所を整備している点も参考となった。

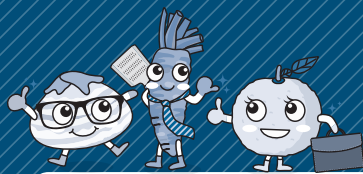
「子ども会議」では、テーマの設定から提言内容まで子どもたち自身が決定し、OB・OGがサポーターとして支援する仕組みが整っている。大人が答えを用意するのではなく、子ども自身が考え提言につなげる取組は、主体性や自己肯定感を育てるとともに、人材育成にもつながるものである。

今回の視察を通じ、子どもを社会の一員として尊重し、意見を表明し参加できる環境づくりの重要性を改めて認識した。当市においても、子ども一人ひとりの個性を尊重した支援と、主体的にまちづくりに参加できる仕組みづくりを今後の政策に生かしていきたい。



その他、2件の視察を行いました

- ・ 子どもの居場所づくりについて（川崎市子ども夢パーク）
- ・ 子どもの権利条例と子ども会議について（東京都豊島区）



常任委員会行政視察報告

経済建設委員会

木材利用促進の取組について（神奈川県川崎市）

木材利用促進の取組は、平成22年施行の「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」を契機に始まり、平成26年に方針を策定、平成27年には官民連携組織「川崎市木材利用促進フォーラム」を設置した。令和7年には「みどりKAWASAKI宣言～100年先の未来への誓い～」を掲げ、「公共建築物への木材利用促進」「民間建築物への木材利用促進」「地方創生に向けた連携」の取組を推進している。

「公共建築物への木材利用促進」では、施設用途ごとに木材使用量の目標値を設定し、国産材の使用や木造化・木質化を推進している。市役所など幅広い公共施設への木材利用が進められている。「民間建築物への木材利用促進」では、171団体が構成されるフォーラムが中核を担い、木質化費用を支援する補助制度により民間需要を喚起している。「地方創生に向けた連携」では、宮崎県など、複数の林産地と連携し、森林体験ツアーによる関係人口の創出や、子どもたちへの「木育」にも取り組んでいる。

今回の視察を通じ、川崎市が森林資源を持たない木材消費地でありながら、法整備を契機に早期に方針を策定し、木材利用促進を多角的かつ戦略的に推進している実態を確認できた。官民連携フォーラムを核に多様な主体を巻き込む仕組みや、補助制度による民間需要の創出、体験ツアーを通じた産地との双方向の利益創出は大いに参考となる。今回得た知見をもとに、当市の実情に合った木材利用促進策を検討していく必要があると考える。



その他、1件の視察を行いました

・事業展開および経営に対する考え方について（タクミ商事株式会社）

議会の活動

7月～9月までの議会（議員）の活動の一部を掲載します。また、議長は議会の代表として総会などにも出席しています。※定例会・臨時会・委員会・調査会は除きます。

各種会議・催し物（出席者）		
7月 9日(木)	萩・石見空港利用拡大促進総決起大会（議長、各議員）	
7月16日(木)	令和8年度山陰自動車道（益田～萩間）の整備促進に関する要望行動（議長）	
7月28日(火)	令和8年度（第27回）島根県市議会議長会議員研修会（全議員）	
8月12日(水)	令和8年度秋季石見四市議会議長会（正副議長）	
8月21日(金)	益田市・萩市・長門市議会議長会（正副議長）	
8月25日(火)	島根県市町村議会広報研修会（議会だより編集委員）	
	山陰道等早期整備決起大会（議長、各議員）	
8月27日(木)	石見四市議会議長会要望活動（正副議長）	
9月 1日(火)	日本遺産「中世日本の傑作 益田を味わう」認定継続発表セレモニー（正副議長・経済建設正副委員長）	
9月19日(土)	山陰自動車道建設促進島根県民総決起大会2026（議長、各議員）	



左：洪 昌督さん 右：藤原 大蔵さん
高津川花火大会
3年ぶりの開催。行政や観光協会主催から民間主導の実行委員会形式へ。企業や個人からの寄附、地域内外からの協力、クラウドファンディングも実施、さまざまな工夫をされてきた。

今回は、高津川花火大会2026計画運営チームの藤原 大蔵さん、洪 昌督さんにお話を伺いました！

①今回、装いを新たに、3年ぶりに復活した花火大会ですが復活に至った経過を教えてください（復活させよう、復活させたいと思った理由）。

街が一番元気になったと感じた日が3年前の水郷祭でした。その後、益田市で花火大会が行われなくなりましたが、他の自治体で行われる様子を見て、悔しくもうらやましくも感じ、街が活性化するチャンスをみすみす潰すのはもったいない、何とか復活させたいと思い、動き出しました。

②8月22日に実施できたわけですが、それまでの準備や当日も含めて苦労したところ、大変だったところはどんなところですか。

はじめて民間主導で運営組織を構築しましたが、実行委員会や実働部隊の人手不足により、個々に大きな負担をかけてしまいました。また、準備期間も短く、大急ぎで作り上げる必要がある中、実行委員会が主体であるとしながらも、ノウハウを持っている市や観光協会、ますだブライドクリエーション（益田版DMO）、商工会議所にも大きな負担をかけてしまいました。

③2万人を超える、大盛況でした。今回、実際にやってみてよかったと感じる点はあるようなことでしょうか。

たくさんの方が花火を見に来てくれて、多くの笑顔を見ることができたことに大きな喜びを感じたとともに、とりわけ若者の笑顔は、率直に将来の希望や期待を感じることができました。

また、大会の開催に際して、多くの組織にも負担をかけてしまったという反省を先ほど述べましたが、一方で、それぞれが協力し合い復活させることができたこと、喜びを分かち合えたことは、新たな発見であり、やってよかったと素直に感じました。

④今後、来年度以降の開催も期待されていると思いますが来年度以降への思いをお聞かせください。

人手不足の中ではありますが、今回花火大会をさまざまな組織の皆さんの力を借りながら実行することができました。今後、早い時期から次回開催に向けての協議が始まります。今回、たくさんのボランティアさんにも力を借りてきましたが、その中から、ぜひ花火大会の運営チームの一員となり、花火大会のプランニングにもかかわっていきたいと思う人が、一人でも多く生まれてきてほしいです。今後も持続可能な祭りとなるよう、たくさんの方が関わって、市民全体で作り上げる花火大会にしていきたいです。

ケーブルテレビ (ひとまるビジョン)

- ▶ 定例会・臨時会
どちらも放映
生放送（111ch）
- ▶ 一般質問
再放送（112ch）

編集委員

委員長	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
安達美津子	平原祐一	須藤二三	豊田浩	永戸明美	阿知波武雄	齋藤勝廣	高橋伴典

→ 議会を傍聴しませんか？

議会は、どなたでも見たり聞いたりできます。詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

次回定例会の予定

次回定例会の予定は、11月27日（金）～12月18日（金）です。なお、正式決定は11月中旬の議会運営委員会で行います。詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 ☎ 31-0490

編集後記

我が子達がまだ幼いころ、よくミニドライブを楽しんでいました。空を見て、「羊のような雲だね」と私が言うと子ども達は「トイストリーの雲よ」と声を合わせて言っていました。ある時は夕方の空を見上げ「お空が虹色」とも言っていました。なるほど、思ったことが昨日のことのように思われます。

また以前、保育士として働いていた時に、運動会の終わりのあいさつで「皆さんお空を見上げてください。あれがうろこ雲ですよ」と子ども達に優しく教えてくれた先生の言葉は、今も忘れられません。四季折々でみられる空の雲、見上げる人の思いはさまざまあると思います。また変化の目まぐるしい時代ですが、変わってはいけないもの、変わるべきものがあると思います。今を生きる子ども達のキラキラした感性を、大切にしていける温かい大人にならなければ。「みんな違っていいんだよ」と秋の空を見つめ、物思いにふけた私です。

（永戸 明美）